

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392000358		
法人名	医療法人有心会		
事業所名	グループホームあいちの森 (このみ)		
所在地	豊橋市松村町48番地		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392000358-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392000358-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和2年12月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

『出会った時から旅立ちの時まで日常を共に考え支援していきます』をモットーに利用者様一人ひとりその場に合った生活に寄り添い最後までサポートしていくことを目指します。最後まで残存能力を生活の中に活かし、馴染みの顔や馴染みの環境の中で笑顔が絶えない様生活していく事を目指しています。そしてスタッフの育成・教育には力を入れ、クリーンな開かれた事業所を心掛け行動しています。また常にスタッフが挑戦できる意欲を引き出す環境作りを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に関しては、ホーム独自のものがあり、皆で考えて作ったものです。ユニットごと月一回以上の会議等で確認し、日常生活の中で実践につなげている。また日常的に見える所に掲示し理念に沿って行える様に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年はコロナウイルス感染予防の為、地域との交流の機会を持つことが出来ていない。例年は地域行事(盆踊り、お祭り)に参加させて頂いたり、有心会主催の感謝祭を行い交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に代表者の方に出席頂き、報告や話し合いを行っている。例年は学生の福祉体験や法人行事での福祉体験コーナー等を取り入れて理解を深めていただく様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて事業所の取り組みや運営状況を報告している。入居者様の日常の暮らしぶりをエピソードを交えながらお話し、認知症の方を理解して頂き、徘徊、災害時の協力をお願いしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村主催の研修や会議等には参加出来る限りは参加し、参加レポート、研修資料は自由に閲覧できるようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については研修、勉強会等を行い職員全体が行わないという理念を理解している。また、ユニット会議で毎回「身体拘束をしない」ケアについて話し合っている。ただし玄関の施錠に関しては病院内という事もあり、理解はしているが安全重視とし施錠させていただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフは、虐待はもとより、威圧感や強制的な態度がない様に日頃から注意しスタッフのレベル向上に繋げている。また積極的に勉強会を設け知識や経験を共有し職員間で注意を払い虐待のない職場に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在1名の成年後見制度を利用されており、その際に学習し、理解している。又その方に対しては後見人とも密に協力支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前見学、面談等で十分な説明を行い理解・納得を図っているとともに入居契約時には契約書、重要事項説明書、退去時の説明をするとともに、同意書に署名をもらっている。改正時には、説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、ホーム便りを月に一回発行し日常の様子をご家族様に話しやすい環境を作っている。また運営推進会議への出席を依頼している。その折や来所時に事業所への要望、意見など聞く事が出来、運営に反映させている。議事録は常に閲覧できるようになっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングは月数回行っており、スタッフの提案・意見を管理者へ報告。また定期的に全体会議を開き、対応策などの検討会も含めて話し合い、その場ですぐに現場で反映させていけるように早期対応を心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の努力や勤務態度、実績に対し、報酬などとも結びつけ、やりがい、向上心が持てるように努められている。なるべく各個人の相談事を聞き入れやすい状況、環境を考えた職場づくりを実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で連携し、研修や勉強会を実施している。外部研修も積極的に全員参加を目標に質の向上に努めている。資格取得の研修は積極的に参加している。またストレスチェックや健診等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	出来るだけ地域の研修会に参加し、常にサービス向上に努めている。地域GH協会主催等で、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	直接言葉で訴えを言えない方もいるので表情や行動を注意深く観察し、安心して頂けるように心掛けている。本人の困っている事や心配な事がある時は傾聴し不安を取り除き信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族と面談し困っている事等を聞き、要望等を確認して安心できる関係づくりに努めている。またしっかりと対応させて頂き理解される様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談の上、管理者・ケアマネジャー・主治医・家族との話し合いにより、本人の状況や状態を見極め、必要としているサービス・希望に沿う様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは本人の出来る力を大切に、共に行き、共に考え、役割・やりがいを持ってお互いが一緒に生活していると感じて頂ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と本人の良い関係が保てる様にお便りを通した日々の生活の記録や家族の訪問時には本人の様子を伝えるように心掛けている。またあらゆる面で必要に応じて連絡・相談を家族と共に考えて行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルス感染予防の為、面会は自粛して頂いているが、手紙や電話等で家族・親しい方々の関係が途切れない様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しない様に、スタッフは仲介役を行っている。利用者同士の相性や性格等を考え席の配置やレク等を仲良く一緒に行える様に努めている。また状況の変化に気づき迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談等があればホーム全体で対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人担当スタッフを設け入居前の生活歴や本人、家族から意向に沿った暮らしやすい生活になるように努めている。場合に応じて会議等で全体で検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に確認した生活歴・馴染みの暮らし方や普段の生活の中での本人の変化・様子を把握し、家族・スタッフ間での情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を観察し、動作・表情により心身の状態の変化を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にユニット会議、月一回のモニタリングを行い、担当スタッフと現状確認を行っている。家族が来訪時に意見を聞き、本人が安心して生活出来るよう介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に24時間体制で記録の記入、申し送り時にスタッフ間で情報交換を行い、ミーティングにおいて介護計画の実践・結果・課題点を話し合い職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の本人の状態にあわせ、家族に相談を行い、必要に応じた日用品の購入、福祉用具の対応、理美容、法人内の受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	例年、地域の行事や近隣の保育園より園児の慰問など行っているが新型コロナにより外部との接触は行えていないが、個別で近くの公園へ散歩等し、気分転換を計っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月一回往診を行い健康管理をしている。法人内での通院必要時には、家族の同意のもとスタッフの付き添いにて通院を行っている。本人・家族の希望や必要時、家族の付き添いのもと法人外通院も行っている。その際は情報提供し、結果報告を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	スタッフは、本人の状態を看護師と共有しており、体調変化や異常がある場合は看護師に連絡・報告し、指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居の際、入院希望の病院を確認している。入院時には、訪問や電話連絡等行い、情報交換を行う様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方について、入居時に指針の確認を頂いている。重度化した場合はご家族・主治医・スタッフ他関係者と十分話し合いをして、事業所の出来る範囲で支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時のマニュアルを作成している。また研修・勉強会・会議等を行い実践力を身につける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署に届け出の下、年二回実践的な防災訓練を行っている。定期的な運営推進会議内で災害時の地域の方々への協力依頼を行っている。利用者が避難できる方法を全職員が身につけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者である事を念頭において言葉遣いに注意し、利用者一人一人の人格を尊重し、その方にあった声かけや対応を行い、スタッフ同士情報共有しながら支援させて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中でご本人が自分の意思を主張出来る雰囲気作りに努めたり、ご本人の心身の状態に考慮しながら自己決定しやすい様に選択肢を設けたりと個人に合わせて対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	安全に考慮しながら利用者一人一人の生活リズムを把握し、ご本人の希望に沿えるよう、ご自身のペースで生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の整容の見守りや支援に加え、季節やその方にあった服装をして頂ける様声掛け、見守りを行っている。また本人の希望があれば家族へ連絡し相談している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	スタッフの見守りのもと野菜の下処理、調理、食器の片付け、お盆拭き等を行って頂いている。1人1人の食事摂取量、様子を把握し楽しく食べて頂ける様に配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養が摂れ、バランスが偏らない様、スタッフで話し合い献立を考え、食事・水分量の記録を付け把握し注意している。またその方にあった食事形態で提供している。透析の方は栄養士と連携を取りながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、毎食後に行い、清潔の保持に努めている。ご自身で出来る方はスタッフの見守りにて、困難な方は介助にて行っている。義歯のある方は、毎日夜間、洗浄・消毒を行っている。歯科受診の必要な方は家族へ報告し受診して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人、排泄表に記入し、個々のパターンの把握に努めている。それにより時間コントロールで誘導を行ったり、失敗を感じさせない対応・羞恥心に配慮した対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表に記入する事で、排泄リズム・形態・排泄量を把握している。便秘対策として体操や散歩、食事内容(乳製品や繊維質等)にも力を入れ取り組んでいる。また医師の指示のもと下剤服薬にてコントロールしている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一人ずつ、本人のペースに合わせて入浴して頂き、必ず見守りを行っている。その日の体調や気持ちに寄り添い気持ち良く入浴して頂ける様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や体調に考慮しながら、基本的にはお好きな時間に休んで頂いている。夜間ゆっくり良眠して頂く為、日中の活動が増えるよう声掛けなども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に服薬一覧表を作成し、いつでもスタッフが確認できるようになっている。服薬ミスがない様に、必ずスタッフ同士で確認を行い、服薬チェック表・服薬ボードを作成し活用している。質問等は医師・看護師にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の好きな事、得意な事に自ら取り組んで頂ける様、声掛けを行っている。出来ない時には手伝い、自分で出来る様に促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナウイルス為、外出自粛をして頂いているが本人の希望や天候や体調に合わせ、近くの公園や屋上へ行くなど気分転換出来る機会を設けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは個々の財布へ入れ、スタッフが預からせて頂いていますが、ご家族と相談の上、外出される際、お好きな物を購入していただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や月一回個人新聞を作成し、ご家族にお渡ししています。その中に本人からご家族にあてたメッセージを自身で書ける方は直筆、書けない方は代筆にて記入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	適切な温度、照明にし清潔を保持しており、プライバシーを侵害しない様、気を付けている。またフロア内は本人の作品や季節に合わせて飾りつけをしている。外出やレク時の写真や塗り絵などの作品も展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お気に入りの場所を把握し、プライバシーを大切にそれぞれの方が思い思いにリラックスして過しストレスの少ない環境づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたもの、好みの物を使う事によって、居心地の良く過ごして頂ける様にしている。また、定期的にスタッフが清掃や整理整頓・衣替え等を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	スタッフ同士で情報を共有し、個々の「できること」を把握する事で、それぞれにあった声掛け・見守りを行い、出来るだけご自分で行って頂いている。また、トイレ等の位置がわかるように名称や番号を貼り、出来る能力を活かし、見守りや自立の促しを行っている。		